

Libella りべら

持続可能な未来をみんなでつくる

あおぞら財団は 25周年を迎えます

1996年に設立されたあおぞら財団は、2021年9月に設立25周年を迎えます。今号では、これまで25年に取り組んできた活動を振り返った上で、2020年度の取り組みをご紹介します。あおぞら財団がめざすものをお伝えすることをめざしました。



2020
年度

あおぞら財団
年次報告

あおぞら財団年次報告2020年度

あおぞら財団の25年をふりかえって…1

- 1.「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む
 - 西淀川ならではの協働と公害地域の再生と地域づくり…3
 - 「人」中心の持続可能な交通まちづくり…5

2.公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

- 公害の経験を伝えていくために資料館を設置・運営…7
- 「公害を伝える」から「公害の経験から学ぶ」へ…9

3.公害経験を伝える国際交流

- 顔の見える市民ネットワークの中で学び合う…11

事業一覧/財務状況…14

ご支援のお礼/賛助会員数…15

2020年度 ご支援の御礼

お助けボランティアとしては、計7人の皆様からご支援いただきました。インターン生は1人を受け入れました。あおぞら財団の活動は多くの方からのご寄付・ご寄贈によって支えられています。皆さま、本当にありがとうございました。

お助けボランティア（敬称略・順不同）

大西 愛 山下 晴美
渡辺 哲敬 岡村 裕成
左成 志朗 藤江 めぐみ
岡崎 久女

寄附・寄贈者（2020年4月～2021年3月 敬称略・順不同）

浅井 真二 金谷 邦夫 藤江 めぐみ
石井 秀樹 川崎 美栄子 藤原 遥
石塚 裕子 切刀 恵美子 松井 憲子
伊藤 三男 蔵本 幸治 松村 暢彦
内田 寛 古賀 崇 水野 武夫
江波 洋子 清水 万由子 村松 昭夫
弁護士法人LSC 谷 智恵子 森山 正和
遠藤 邦夫 中島 晃 山岸 公夫
逢坂 隆子 中村 昌史 山崎 義郷
大島 民旗 中山 裕二 山崎スチール株式会社
小川 輝光 新田 保次 湯本 浩之
奥村 昌裕 八丸 久美子 除本 理史
柏原 愛子 早川 光俊 吉田 長裕
片岡 直樹 藤井 賢 脇田 武利

インターン生（敬称略・順不同）

鹿沁雨（大阪大学大学院）

賛助会員

● 2020年度（2021年3月末時点）
（件数）

個人	129
学生	1
法人	16
団体	11



1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの方が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判（1978～1998）では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

【あおぞらビル】

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前：1,000円/午後：1,300円/夜間：1,300円/全日：3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館（エコミュージム）

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。（環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」認定施設）

開館日 月曜日と金曜日（10:00～17:00）/要事前電話予約

※いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

【会員・寄附募集】

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

- 賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。
【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、法人・団体：年一口10,000円

● 会費・寄附の振込先

【郵便振替口座】記号・番号：00960-9-124893 / 加入者名：あおぞら財団
【ゆうちょ銀行】金融コード：9900 / 店番：099 / 預金種目：当座 / 店名：0九九店 / 番号：0124893 / 名義：あおぞら財団
【三菱UFJ銀行】歌島橋支店 / 普通 / 3728858 / 財）公害地域再生センター
これまでご案内しておりました、三菱UFJ銀行と口座が変わっておりますので、ご注意ください。

2020年度 あおぞら財団年次報告

設立から25年。あおぞら財団の活動は、近年、地域づくりでは財団が事務局を務めて、多様な方々と協働するスタイルが定着してきました。公害の経験を伝え学ぶ活動は、ESDとして多角的に展開しています。今号で、その来し方行く末を考えます。

2020年度の総括

あおぞら財団理事長 村松 昭夫

あおぞら財団は、1996年9月、命や健康を奪われた代償としての賠償金によって設立され、今年で25周年を迎えます。公害患者さんらが財団設立に託したお願い、「手渡したいのは青い空」の願いは、公害で疲弊した西淀川地域を人と環境に優しい地域に再生させたい、少しでも将来世代に良い環境、良い地域を残したいというものであり、これがあおぞら財団設立の原点です。

こうした理念を高く掲げた財団設立自体、全国初のことであり、25年間、多くの方々の物心両面からのご協力に支えられ、様々な困難に遭遇し紆余曲折を経ながらも、貴重な成果、経験を積み重ねてきました。目指している目標からは見ればその成果は微々たるものですが、今後も、公害患者さんらが財団設立に託した願い、財団設立の原点を大事にして活動を続けていく決意です。

2020年度は、長期に亘って新型コロナウイルスの影響を受けたことなどから、十分な事業展開ができませんでした。大要は以下の

通りです。

第1の柱である「環境・福祉・防災・文化・生業」から西淀川の地域再生に取り組むという点では、「西淀川・地域再生研究会」において、西淀川地域における地域再生の歩み、現状今後について調査・研究を行いました。みてアート関係では、もと歌島橋バスターミナルを「西淀川アートターミナル」としてアートスペースとして開放し、日常的にアートに触れられる空間を作る取り組みを行いました。「にしよど親子防災部」では、親子ぼうさいブックを配布し講演会を実施しました。環境保健では、オンラインの呼吸リハビリ教室の試みを行いました。なお、姫里ハウスにおけるカフェやゲストハウスは、新型コロナウイルスの影響で利用は大きく落ち込みました。

第2の柱である公害の経験から学び、未来を創る市民を育てるという点では、対面での講義やフィールドワークの実施の多くが中止等を余儀なくされ、講師派遣等の年間派遣数等も前年度から落ち込みました。一定の件数を確保することができませんでした。資料館関係では、資料整理状況のとりまとめ、資料集の作成に着手し、2021年のフォーラムを長崎で開催するための準備として、長崎でパネル展を開催しました。

また、公害に係る「オーラルヒストリー」業務では、一連の大気汚染公害訴訟の運動と環境政策の変遷に着目し、ステークホルダーとの対話の経緯について当事者から聞き取りを実施しました。国際交流の事業では、リアルでの交流が行えないため、WEBを活用した交流を進めました。

あおぞら財団の活動には大きく分けて3つの分野があります。



3ページからは、それぞれの分野から2020年度の主な事業成果を報告いたします。主な事業以外のすべての事業について網羅的に記載している詳細な事業報告は、あおぞら財団のホームページに掲載しています (<http://aozora.or.jp/johou>)。

研究者から ひとこと



2020年度は、これまでのペースや常識が通用しないので、コロナの波間に漂いながら、できることを考え続けてる内に一年が過ぎてしまったような気がします。オンラインの普及や移動・交流が制限される中、改めて、人と人とのコミュニケーションの重要性と難しさについて学んだことを今後に活かせればと思います。

(藤江 徹)



竹内寿美子さんから聞き取りさせていただいた「西淀川公害患者と家族の会」立ち上げ初期の貴重なお話に脱帽。なぜ公害が起きたのか、なぜ運動に取り組むことが大切なのか、患者たちが学び合い、支え合い、社会を動かしたエネルギーに感動しました。

(栗本 知子)



行事をやるかやらないか。やるならどうやって? そのことばかり考えていた1年。そんな中、「御堂筋サイクリック」や「みてアート」が実施できたのは大きいです。中止することは簡単ですが、やり続けること、やれる道を探すことは、後になって生きてくると思っています。

(鎗山 善理子)



コロナ禍によって、短期間で常識が簡単に覆されてしまうという経験を初めてしました。人との交流や外出は良いこととされてきましたが、人とは会わない方がよく、外出もしない方がよいというのが当たり前になってしまいました。変わっていく社会の中で、自分ができることを模索したいと思います。

(谷内 久美子)

西淀川ならではの協働と公害地域の再生と地域づくり

財団役員からひとこと



長瀬 文雄 さん
公益財団法人 淀川勤労者厚生協会副理事長
あおぞら財団理事

今、かつての“公害の街”のイメージはなく、公害を知らない新しい住民が暮らす街となりつつある西淀川。誰もが安心して住み続けられるまち、若い人たちが自分の故郷と思えるまちづくりが求められています。人と人、行政、企業が共同してそんなまちづくりの主体者となる「情報提供や機会、場づくり」をあおぞら財団に期待します。



にしよど おやこ
ほうさいかるた
(2021.5)

を中心としたゆるやかなネットワーク「にしよど親子防災部（2019年〜）」の事務局をあおぞら財団が担い、2020年度にはコロナ禍でも防災を

新型コロナウイルス禍での「協働」とは？

あおぞら財団は公害を経験した西淀川の「地域再生」をめざして1996年に設立されました。設立趣意書には「行政・企業・住民の信頼・協働関係（パートナーシップ）」を再構築して地域づくりを進めていきたいとあります。信頼関係を築くには、様々なステークホルダーが会って話して、交流し、協働していくことが大切です。2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、人が集まる「密」を避けるよう求められる中、改めて「協働」の在り方について問われる一年となりました。

身近な自然環境を調査・観察する取り組み



西須摩住民提案WS(2008)

あおぞら財団設立当初から初期は、「トンボが飛び交うまち」をめざし、西淀川の原風景・原

体験を調査するまちあるき探検隊など、西淀川の実態を知るための様々な調査を市民参加型で進め、それらを踏まえてマスタープラン作成や提言づくりに取り組みました。

長年、子ども達や地域の人たちと一緒に取り組んだ、「タンポポ調べ（1997〜2014年）」や「セミのぬけがら調べ（1999〜2014年）」等の指標生物調査や「空気調べ（2006〜2013年）」から西淀川区の環境の状況を把握する取り組みの目的は、地域づくりの担い手を育てることでした。現在も続く、日本野鳥の会大阪支部にご協力いただく矢倉海岸・緑陰道路探鳥会では、生態系ピラミッドの上位種であるミ



misago

防災を通じて地域住民との協働を深める

1995年の阪神・淡路大震災では大阪市内では最も被害が大きかった西淀川区は、地盤沈下の結果、海拔が低い

学べるようにと、「にしよどおやこぼうさいかるた」づくりに取り組みました。未就学児から高齢者まで59人から100点を超える応募をいただき完成したかるたには、西淀川の災害の特徴や歴史が盛り込まれています。「みんなで守る！みんなで助かる！防災まちづくり」を合言葉に、地域との協働が深まってきました。

●アートを通じてまち全体を元気に

西淀川地域全体をミュージアムとみたり、「まちを楽しむ活動」を通じて交流しあう「フィールドミュージアム構想」の一環として、2013年度からは、人と場所をアートでつなぐイベント「みてアート（御幣島芸術祭）」を企業や様々な団体・個人と協働して開催してきました。当初、市民の文化祭的な雰囲気であった「みてアート」から、本格的な芸術体験をまちに広げることで街の文化を育もうと、2020年度には、もと歌島橋パターミナルを新たに「西淀川アートターミナル（NAT）」として活用することとしました。



西淀川アートターミナル企画展真知子「ROLE PHOTO」(2020.10)

地域が多く、災害のリスクが高い地域であると言えます。あおぞら財団では、誰もが移動しやすいまち・西淀川バリアフリーマップの提案（2010年度）から防災活動を開始し、2012年からは、災害時の要援護者支援に取り組みました。



西淀川区福祉避難所合同訓練(2015.2)

南海トラフ巨大地震による甚大な被害想定が大阪府から公表（2013.10）される中、災害時死傷者ゼロを目指し、一人で避難することが困難な要援護者を支援する体制づくりを、西淀川区民、地域振興会、福祉事業所、専門家、行政との協働で進めました。

2020年度の取り組み

西淀川のいろいろな人と活動を通じてつながりを広げる

●「おやこほうさいかるた」完成

防災活動は近年では、西淀川区在住・在勤の子育て支援活動をしている方々



みてアート2020~にしよどがアートのまちになる日(2020.11)

コロナ対策をしながら、アーティストやアートに関心を持つ地域住民によるサポートチーム「NATメイツ」等とともに、9月から毎月5日間、企画展を開催しました。11月の「みてアート」についてはコロナ禍で直前まで開催が危ぶまれましたが、こんな時だからこそ、いろいろな人とアートを通じてつながりながら、まち全体を元気にしていきたいという思いから、規模を縮小し開催に踏み切ったところ、短期間で多くの地域拠点の協力を得られたことは、「みてアート」が地域のイベントとして定着してきた結果だと感じます。区長をNATにお招きして西淀川のこれから考えたアーティストトークも開催できました（りべら「155号参照」）。あおぞら財団設立から約25年が経過し、西淀川のような人と協働を進めていけるようになってきました。これからは「西淀川ならではの公害地域の再生」をめざして、地域づくりに取り組んでいきたいと思えます。

「人」中心の持続可能な交通まちづくり

財団役員からひとこと



新田 保次 さん
大阪大学名誉教授、
あおぞら財団理事

道路提言Part1が出されたのは1998年7月ですから、すでに四半世紀近くが経過したのですね。今までの提言に携わったものとして感慨深いです。環境と福祉・健康を両輪に持続可能な交通まちづくりに全国に先駆けて取り組んできたと言えるでしょう。

年度の実証実験には、39社、315台のトラックが参加し、年間400キロリットルの燃料の削減ができました。エコドライブは、①環境改善、②コスト削減、③安全性向上、④人格形成、⑤コミュニケーション増進、⑥交通流円滑化の一石六鳥の効果があります。この事業により、河北地域エコドライブ推進研究会が環境大臣表彰を受賞しました。

目指すのは持続可能な交通

公害を生み出さない環境をめざして、あおぞら財団が設立して以来、持続可能な交通まちづくりに継続して取り組んでいます。持続可能な交通は、汚染の削減、エネルギー効率性、安全と健康、アクセシビリティの確保、利用のしやすさなどを指すもので、一言でいうと「車」ではなく「人」中心の交通です。大きな目標ですが、あおぞら財団では、行政や企業、市民のみなさんと一緒に、協働しながら交通まちづくりに取り組んできました。

和解条項に基づいた「道路連絡会」の支援

「西淀川道路環境対策連絡会（以下、道路連絡会）」は、西淀川公害訴訟において原告（公害被害者）、国・阪神高速道路路公団との間で交わされた和解条項に基づいて実施されています。1995年以降、年に1回のペースで連絡会を開催しています。公害被害



西淀川道路連絡会(2004.6)

者が、道路環境対策について政策決定者である道路管理者と話し合いを続けることができる貴重な場です。

あおぞら財団は道路連絡会の支援を行っています。支援の一環として、交通計画などの専門家とともに「道路提言Part1」Part6」を作成しました。提言の内容はロードプライシングの導入、大型車規制、道路整備計画の分権化と住民参加、交通需要管理(TDM)社会実験、自転車の活用、低速交通など持続可能なまちづくりの考え方を先取りするものでした。

この提言と道路連絡会の議論をふまえて、数多くの交通対策が実現しました。例えば、国道43号では車線の削減、植樹帯の設置といった様々な対策が行われました。また、2001年からは阪

神高速5号湾岸線の通行料を割り引き、国道43号および3号神戸線の通行料を減らす「環境ロードプライシング」を実施しています。他に、西淀川区では、全国に先駆けて2005年から

PM2.5の計測を行っています。その一方で、歌島橋交差点の地下道建設について、原告側からは人を地下において、車優先の対策であり市民の意見が十分に反映していないと意義を唱えていました。工事は完成し、地上の横断歩道は撤去されたままになっています。

一石六鳥のエコドライブ

2003年から、トラック事業者や自治体、専門家と協働で河北地域エコドライブ推進研究会を組織し、エコドライブ（環境にやさしい運転）の実証実験・普及に取り組みました。エコドライブ支援機器（デジタルタコグラフ）を取り付け、安全運転、運転技術の向上に役立てようという活動です。2005

2020年度の成果 安全に楽しく！自転車まちづくり

「道路提言」は、具体的な自転車まちづくり活動にもつながっていきます。「御堂筋サイクルピクニック」、「大阪でタンDEM自転車を楽しむ会」、「子ども自転車教室」、「養護学校での自転車教育」など、走行環境の充実を訴え、安全に楽しく自転車に乗るための多様な活動を行っています。現在は、御堂筋の一部に自転車レーンが新設されたり、多くの都道府県でタンDEM自転車の走行が可能になったりなど、活動がめざましい自転車走行環境に少しずつ近づいています。



サイクルピクニックでの検温(2020.9)

2020年度はコロナ禍のため、自転車まちづくりの活動も変更や縮小がありました。新しく試みたこともあり、自転車文化タウンづくりの会、御堂筋サイクルピクニックの連名で「大阪サイクルモデルの提案」を作成し、大阪市・大阪府に提案をしています。長年活動してきた成果もふまえて、「御堂筋サイクルレーン整備」、「大阪自転車ネットワークの整備」、「自転車安全に使いやすい環境を」といった提案をしています。

コロナ禍の中でも安全な移動手段である自転車には注目が集まっています。今後も安全で楽しい自転車まちづくりを目指して活動していきます。



大阪サイクルモデルの提案(2020)



エコドライブ交流会(2007.4)



第15回御堂筋サイクルピクニック(2020.9)

公害の経験を 伝えていくために 資料館を設置・運営

研究員 鎗山 善理子

「公害博物館構想」から出発し、
「西淀川地域資料室」を開設



専門家による研究会(1998年)

あおぞら財団の設立理念の柱の一つである「公害経験の伝承」を実践していくために、財団発足当初から「公害博物館(仮称)」基本構想が検討され、構想実現の場として1996年12月に、あおぞらビル5階の部屋に開設したのが「西淀川地域資料室」です。西淀川公害による被害者・住民運動資料を保存し、整理することからスタートしました。その後、専門家の協力を得て「公害問題資料保存研究会(1999年)」や「西淀川地域研究会(2001年)」による研究や提案活動、大阪人権博物館での企画展(2002年)、四日市公害判

決30周年記念シンポジウム「公害・環境問題資料の保存・活用ネットワークをめざして」(2002年7月)の開催など、公害・環境問題資料の保存と活用の意義について、常に発信を続けてきました。

合わせて、地域の歴史や今を学ぶ場として、「西淀川の震災展」や「土地の変化」、「いきもの展」などの企画展を地域のみなさんの力を借りながら取り組むことで、活動の土台を広げていきました。

10年後、「西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)」を開館

同室開設から10年後の2006年に、「へや」から「やかた」へと看板を新たに資料館として再スタートをしました。このとき、約2万点のデータベースが整理されていきました。箱数は230箱。オープンを記念して、企画展



資料館オープン(2006年)

や街歩きイベントを開催し、企画展を行うたびに、新たな資料の発掘や人とのつながりが生まれていきました。資料のデジタル化や映像のDVD化などにも取り組みはじめました。2008年には常設展示パネル「公害みんなで力をあわせて 大阪西淀川地域の記録と証言」を多くの方々の方々の寄附により作成しました。

他地域とのネットワーク



公害資料館連携フォーラムin富山(2014年)

「公害」を知らない世代が増える中、かつての公害地域で、どのような問題があったのか、今どうなっているのかを、参加型・体験型で学ぶ機会をつくらうと、2009年に富山イタイイタイ病の地をフィールドに「公害地域の今を伝えるスタディツアー」を開催しました。大学生が現地に行き、現場で被害者や企業、関係団体にヒアリングを行いました。この取り組みはその後、新潟水俣病、大阪西淀川と続きました。2013

2020年度の取り組み

資料集の作成に着手、公害資料
館ネットワークの活動

当館が開館から15年を迎えるにあたって、これまで整理してきた公害・住民運動資料や地域資料について、当館の所蔵資料の内容がわかる資料集の作成に着手しました(本誌154号参照)。

公害資料館ネットワークについては、新型コロナウイルスの影響に



リニューアルした公害資料館ネットワークのサイト(2020年度)

12月1日(25日)を長崎実行委員会が中心となって企画・開催。展示開催中には、「クロストーク」ナガサキピースミュージアム×公害資料館」(12月19日)を開催し、オンラインでも配信しました。

ネットワークの活動は8年を終え、研究活動は自立的に行われるようになってきています。そうした活動の進展とともに運営体制についても検討が進められて



クロストーク「ナガサキピースミュージアム×公害資料館」(2020年)

います。また、2021年度より、事務局が水島地域環境再生財団(みずしま財団)に移転されることとなりました。当財団では、引き続き、同ネットワークの構成団体として活動に取り組んでいきます。

館長からひとこと



小田康徳さん
西淀川・公害と環境資料館
(エコミューズ)館長

森脇さんと一緒に館の看板を掲げて15年。この間、財団・資料館は西淀川公害に関わる原資料を保存し、それを生かす道を全国的視野で探ってきた。いま改めて被害と運動を事実で照らす資料集を作りたい。

年からは「公害資料館連携フォーラム」の活動がはじまり、新潟、富山、四日市、水俣、大阪、東京、倉敷にて年に1回、全国各地の公害資料館の関係者が集まり、情報意見交換をしてきました。また、資料情報については、各地域の公害資料の保存・整理活動の支援を行い、それらをインターネット上のサイト「記録で見る大気汚染と裁判」で閲覧できる仕組みを2009年度から2010年度にかけて構築し、その後もデータ更新をしてきました。

「公害を伝える」から 「公害の経験から学ぶ」へ

研究員 栗本 知子

環境を見守る市民の育成を めざして

公害が激甚だった時代、西淀川の教員たちは、西淀川の環境の悪化に関して生徒たち自身が環境を調査し、理解する教育に取り組みました。財団設立後には、地域の環境を住民が読み解く取り組みとして、環境診断マップづくりに取り組み、1999年に発行したマニュアルは全国に2万冊が配布されました。2002年には子ども版の手引書も作成しています。

子どもたちが環境の変化を読み解く手法としては、タンポポ調査、セミの抜け殻調べ、空気調べ(NO₂測定)、探鳥会といった活動を、「四季を通じた西淀川の自然・環境調査イベント」と位置づけ、継続して実施しました。これらの活動は2014年度まで続けられました(詳細は本誌138号参照)。

西淀川をフィールドとした学び

1997年に作成された「まちあるきマップ 西淀川フィールドミュージアム」では、地域の自然や人びとの営みそのものを博物館とみなす「フィールド



公害資料館連携フォーラムin大阪での西淀川フィールドワーク(2017.12.15)

みてもらい、交流しあうこと」を目的に、「留学生や修学旅行生にも公害やまちづくりについて学んでもらう場を提供していきたい」とされています。

フィールドワークについては、2011年に実施された「公害地域の今を伝えるスタディツアー」を機に伝える手法の改善が重ねられ、現在では、大気汚染公害や地域づくりについて学ぶだけでなく、ESD(持続可能な開発のための教育)として、人権や市民性教育、防災など、多様な切り口で対話的に学ぶ場をコーディネートしています。2015年度からは大阪市より、「環境教育促進法」に基づく「体験の機会」の認定を受けています。

公害の経験について学ぶ

西淀川公害の経験を伝えるための教育活動は、公害患者さんの語り部のお話を聞くことを中心に、様々な教材や手法を取り入れて展開しています。教材は、学校向けには、2001年には公害学習用パネル、2005年にはドラマ仕立ての視聴覚教材がつけられ、2015年には小学校での授業案と解説資料をまとめた冊子を作成しています。これらの教材は、公害患者さんの語り部活動と組み合わせ、西淀川高校をはじめとした西淀川区内の学校を中心に活用されています。



西淀川高校での語り部の授業(2013.7)

大気汚染公害の歴史と今日的課題を関連づけた教育活動も様々な切り口で試みられてきました。大気汚染の変化を視覚的に把握する教材「SCPブロック」や、食と交通と環境のつながりを考える「フードマイレージ買い物ゲーム」の開発などです。「フードマイレージ買い物ゲーム」は2009年、「地球温暖化防止『一村一品』大作戦全国大会」で特別賞を受賞しています。

2020年度の取り組み

公害の経験から未来に向けて なにを学ぶか

2015年度から開発に取り組み始めたのは、参加型教材の開発です。学校現場でアクティブラーニングが推奨される中、2016年度からは大阪市教育センターの新任教員研への講師派遣に つながり、ロールプレイ教材「あなたのまちで公害が起きたら」は「総合的な探究の時間」のプログラム等で活用されています。

SDGsへの問題意識が高まる昨今、かつて公害に直面した人たちが、どの

ような葛藤を経て公害を解決したのか、その課題解決の過程から学びたいという声が届いています。2020年度の「公害に係るオーラルヒストリー作成業務」では、国の公害対策の変遷と、全国の大気汚染公害反対運動の、それぞれの立場からの聞き取りを試みました。

大気汚染の状況が変わる中、政策の変更を検討せざるを得ない行政側と、継続する被害に対する補償をどう守るかという患者側のそれぞれの聞き取りを読むと、一筋縄ではいかなかった公害の解決のプロセスを学ぶことができます。西淀川公害患者と家族の会立ち上げから事務局を務められた竹内寿美子さんのお話も、西淀川の患者たちがどのように運動を展開していったのかがわかる貴重な聞き取りとな



患者会の事務局を務めた竹内寿美子さんのオーラルヒストリーをまとめました。(2021.2)

財団役員からひとこと



上田 敏幸 さん
西淀川公害患者と家族の会事務局長
あおぞら財団評議員

「公害病は私からたくさんのお話を奪い取りました。」—大気汚染が原因で気管支ぜん息などの病気になった患者たちが、自らの体験を伝える被害の語り部活動。「公害を学ぶ」研修プログラムの必須アイテムと位置付けられ、患者が、その家族が参加している。しんどいこと、恥ずかしいこと、思い出したくない事実が語り手を鍛え、聞くひとを動かしている。



フードマイレージ買い物ゲームで特別賞を受賞(2009)

研究員 藤江 徹

顔の見える 市民ネットワークの中で 学び合う

新たな被害を生まないために

あおぞら財団の国際交流活動は、日本の公害経験を世界の多くの人達に伝え、交流することで、新たな被害を未然に防ぎ、現在もなお私達が直面している公害・環境問題を一緒に解決していきたい、という思いからスタートしています。

設立(1997)当初は、アジア・太平洋NGO環境会議(APNEC)、日本環境会議主催への出席、海外への訪問や海外NGOの招聘などを行い、2001年には、北九州市で「NGO国際会議と市民のつどい」を開催しました。その後、韓国からの司法修習生の受け入れ、大田市グリーンコリア

との共同NO₂測定、台湾環境NGOとの交流、JICAやIATSS(国際交通安全学会)を通じた東南アジア・中南米からの視察受け入れなど、顔の見える国際交流を通じたネットワークづくりを進めてきました。上海万博(2010)の際には、日本館にて、大気汚染公害についてのパネル展示を行い、13万人が来場しました。

そうした交流を通じて進めてきた、日本の公害経験を記した資料の翻訳は、中国語・英語・韓国語・ポルトガル語・ミャンマー語と多言語に及び、ホームページ上で公開することで世界に発信できる時代になりました。また、それぞれの国の公害・環境活動についての話を聞き、資料を日本語に翻訳することで、他国から学ぶことも多くあり、留学生のインターン研修受け入れでは、各個人が感じている、暮らしの中での環境問題と日本との関係性も見えてきます。

なぜ公害を止めることができないのか？

公害・環境問題は、国ごとの

社会制度や風土によって異なるものの、「自国の環境を良くしたい」という思いはどこでも同じです。一方、各国で経済発展が進む中で様々な公害が今なお進行形で起きているのも事実です。大気汚染公害に至っては、どの国でも発生してしまっています。また、世界中が協力しないと解決できない地球温暖化問題は大きな岐路に立っています。

こうした問題の解決のためには、今にしても、公害の経験から学ぶことは多いと思いますし、改めて、国際交流の中で互いに学びあい、持続可能な地球のために貢献していきたいと思えます。

2020年度の取り組み

オンラインでの国際交流

●ミャンマー、ベトナムとつながりを継続

本年度は、新型コロナウイルスの影響により海外との行き来ができなため、オンラインでの交流となりました。ベトナムについては現地環境NGOのホームページから活動報告を翻訳、ミャンマーについてはオンライン研修を予定していましたがクーデターが



日中公害被害者活動支援交流会(2008.3)

発生(2月1日)してしまったため、研修準備と教材作成(ミャンマー語)を行いました。

新型コロナウイルスは世界共通の脅威であることから、現状で可能な手法としてオンラインでやってみようという共通認識があることは利点となっています。こうした状況は当面続くと考えられ、これまでに関係のあった環境NGOとのつながりを軸に、オンラインを活用した新たな国際交流のあり方を模索していければと思います。

●日中交流10年をふりかえる

中国とは、公害環境問題に関心を持つ人々と現状についての情報を共有・意見交換し、日中の相互理解につながる情報発信・人的交流を続けて10年が経過しました。

2020年度はその10年をふりかえるために、過去にあおぞら財団の招聘で来日したことのある5つの中国



中国環境NGO研修受入in舞洲工場(2019.2)

環境NGOからこの10年間の環境活動や日中交流の意義について、神戸外国語大学の学生にオンライン・インタビューに取り組んでもらい、日本語に翻訳し、レポートとしてとりまとめました。

成果としてみてきたことのひとつは、日本の環境問題にとりくむ諸団体・施設と中国の環境NGOをつなぐハブ機能をあおぞら財団が果たしたということです。菜の花プロジェクトや日本のゴミ処理の現場、水銀回収のとりくみなどに触発された様々な活動が中国で展開されています。ふたつは、青空を取り戻した西淀川を訪れることが、環境汚染に直面している中国の人びとを鼓舞しているということです。湖南省創意環境科技伝播センターの劉科さん

は、環境の変化を写真で記録し市民に実態を伝える活動に取り組んでいます。来日の経験について次のように語りました。

「中国の多くの市民は(環境改善は)難しいと感じていますから、実際に大気汚染公害の被害地域であった西淀川の変化を伝えることも驚きます。西淀川を紹介することで『努力するとやり遂げられる』と話しています」

中国における地道な環境活動の拡がりについては、日本国内ではほとんど知られていません。交流を通じて、両国の互いの理解を深めながら、国内での情報発信を改めて進めていければと思います。

財団役員からひとこと



村松 昭夫 さん
あおぞら財団理事長、弁護士

公害経験を伝えるとともに、各国の環境NGOと多彩な交流も行ってきていると思います。そのなかで、若者が中心となった創意工夫を發揮した環境NGOの活動にも触れ、羨ましく思いました。こうした市民レベルでの交流の継続は、環境公害分野だけでなく、地域内の平和維持にも貢献できるのではないかと思います。

【 2020年度 あおぞら財団事業一覧 】

1 「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

1. 地域再生:地域資源の活用によるまちづくり
2. 交通再生:交通マネジメントセンター機能の強化
 - 1) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進(助成元:西淀川公害患者と家族の会、(公財)交通エコロジー・モビリティ財団)
 - 2) 自転車を活かしたまちづくりの推進(受託元:(一社)市民自転車学校プロジェクト(CCSP)、(株)都市空間企画研究所、助成元:(独行)福祉医療機構)
3. 安全再生:防災まちづくりの推進
(助成元:JR西日本あんしん社会財団、自主財源)
4. 健康再生:地域での呼吸ケア・リハビリテーションの普及(助成元:西淀川公害患者と家族の会、自主財源)
5. 交流再生:地域の交流拠点でのソーシャル・ビジネスの立ち上げ(自主財源)
 - 1) 姫里ゲストハウスいこね&くじらカフェ
 - 2) 交流拠点イコバ
6. 文化再生:西淀川の資源を活かした環境文化をつくる(企業等からの協賛金、自主財源)

2 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

1. 公害教育・研修センター機能の強化
 - 1) 講師派遣・研修受入(自主財源)
 - 2) 学校教育(自主財源)
 - 3) 教材開発および研修メニューの整備(自主財源)
 - 4) 公害に係る「オーラル・ヒストリー」作成業務(請負元:環境省)
2. 西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)の運営
 - 1) 資料館運営(自主財源)
 - 2) 公害資料館連携
 - 3) 各地の公害地域の資料整理を支援する(自主財源)
 - 4) 公害地域の公害学習を支援して、公害資料館の可能性を広げる(自主財源)
 - 5) 淀川勤労者厚生協会の所蔵資料・図書の整理及び活用(請負元:(公財)淀川勤労者厚生協会)

3 公害経験を伝える国際交流

1. 大気汚染経験等情報発信業務(請負元:環境省)

※実行委員事務局として実施しているものを含む

財政状況

(2020年4月1日～
2021年3月31日)

収入	
資産運用益	3,893,193
会費	1,485,000
受託金等	11,010,299
寄付金	664,427
雑収入	12,509,130
基本財産取崩収入	10,300,000
積立金取崩収入	0
貸付金・保証金戻収入	614,960
合計	40,477,009

支出	
事業費	31,381,660
管理費	9,541,171
積立金取得支出	22,800
固定資産取得支出	1,150,690
貸付金・保証金支出	0
合計	42,096,321
当期収支差額	-1,619,312
前期繰越収支差額	5,471,980
次期繰越収支差額	3,852,668

(単位:円)

りべら No.156 2021年7月号(年3回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人:栗本 知子
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp

デザイン:(株)バード・デザインハウス
会員の購読料は会費に含まれています。
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



あおぞら財団
Facebookページ
「いいね!」を
押してくださいね。



スタッフツイッター 編集後記

栗

長年、エコミュージズ担当として活躍された林美帆さんが、2021年度よりみずしま財団に移籍し、資料館の立ち上げに携わられることになりました。今号はあおぞら財団25年の積み上げに貢献した多くの方々のことを想い編集に取り組みました。

広告

デイサービスセンター

あおぞら苑






2006年10月1日にデイサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがデイサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

【お問い合わせ】
TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114
URL : http://aozoraen.com/
運営 : 社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日25人

Hamada Kagaku
広告

廃棄物でお困りなら 浜田化学のコンシェルジュに お任せください



使い終わった廃食油



加工中に発生した食品残渣



その他の廃棄物

お客様に最適なメニューをご提案いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。 浜田化学 コンシェルジュ 検索

浜田化学株式会社 ☎06-6411-3457 <http://www.hamadakagaku.co.jp>

広告

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中!

～「いのちの平等」をめざして～

差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

- ・西淀病院
- ・のぞと診療所
- ・千北診療所

- ・ファミリークリニックあい
- ・姫島診療所
- ・ファミリークリニックなごみ

- ・介護老人保健施設よどの里
- ・在宅総合センターらくらく
- ・社会医学研究所

WHO認証
「地域健康増進支援事業所」
認証施設



看護士募集中!

公益財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL www.yodokyo.or.jp